

C-8 女子大学生の着衣状態について(第6報)

神戸大教育

稲垣和子

目的 女子大学生の年間を通じての衣服調査により、着衣状態の実情を把握し、国民健康増進に役立てようとした。本報では、第5報に引続き雨衣着用時の手部及び足部の寒暑感覚点数の月変化と全身寒暑感覚点数の月変化との比較、及び衣服の重ね方について検討を加え、若干の成績を得たので報告する。

方法 調査は京阪神に居住する女子大学生146名について行なった。調査方法については、前報までに報告した通りであり、今回もタナックカードを利用して結果を整理した。

結果 雨衣着用時の寒暑感覚は、晴天時に比較して夏季は大差が認められないが、春・秋季は多少感覚が下まわり、特に1月、2月の嚴冬季には冷たく感じる。又この傾向は手部に比し足部の方が大である。衣服の重ね方については、外衣(ブラウス、スカート、セーター、カーディガン、ワンピース及びツーピース)の着用状態に衛生学的にみて興味ある結果が出たので、それらについて検討を加え報告する。